

4歳未満で乳歯が抜けるのは早い!? 成長に関わる病気が隠れていることも



乳歯が抜けて永久歯が生えてくるのは、ごくあたりまえの成長の過程。でも、4歳にもならないのに、また、特にぶついたりした覚えもないのに乳歯がグラグラしたり抜けてしまったりしたら、骨の成長に関わる低ホスファターゼ症(HPP)という病気が隠れているかもしれません。小児歯科医と小児科医の連携で地域の子どもの健康を見守る、横須賀市のおふたりの先生に伺いました。



木本 茂成 先生
 神奈川県立小児歯科学 教授
 同附属病院小児歯科 診療科長



宮本 朋幸 先生
 横須賀市立うなまち病院 副管理者・小児医療センター長・小児科部長

神奈川県立小児歯科学卒業、同大学院歯学研究科修了。米国ワシントン大学客員研究員。2006年より現職。

筑波大学医学部卒業。同大附属病院小児科入局後、神奈川県立こども医療センター循環器科、同医長を経て、2004年より現職。

乳歯が抜けるのは ふつうは6歳前後 4歳未満で抜けるのには 原因がある

木本先生 日本の直近のデータでは、乳歯が生えるのは男児で生後7か月、女児は8か月くらいといわれています。その後、2歳半から3歳頃までに乳歯は全部生えそろういます。顔をだした乳歯の下には永久歯の種がすでにできていて、それが少しずつ伸びて乳歯の根を溶かしていきます。6歳前後になると下あごの1番前の乳歯の根が溶けて自然に抜けます。

骨の成長のスピードには個人差がありますが、4歳未満で乳歯がグラグラしたり抜けてしまつたのには何か原因があるはず。その原因は、強くぶつけたなどの外傷がほとんどですが、ぶつけた覚えもないのに早くに乳歯が抜けてしまつたら、それは骨の成長に関わる病気が関係しているかもしれません。

乳歯が早くに抜ける原因は HPPという病気かも そのサインを見逃さないで

宮本先生 乳歯が早く抜ける原因のひとつに、骨を作るのに大事なアルカリホスファターゼという酵素が足りないためにおこるHPPという病気があります。重症の場合、新生児期から呼吸器不全をおこすこともあります。成長に伴って様々な症状がでてきます。共通するのが骨の柔らかさです。ちよこ力を入れただけで骨折したり、骨が痛かったり、低身長などがみられたりすることもあります。

歯の根の表面にはセメント質という薄い層があり、歯と骨をつなぐ働きをしています。HPPではそれが十分に作られないために抜けやすくなるのです。成人のHPP患者さんの多くで、子どもの頃に乳歯が早くに抜けた経験があったという報告もありますから、乳歯の状態をチェックして、

HPPの疑いがないかを確認するのは重要だと考えます。

木本先生 歯が抜けたまま長期間放置していると、隣の歯が傾いてきて歯並びが悪くなる可能性があります。また、食べ物の飲み込みや発音などにも影響するので、乳歯の歯並びでも入れ歯などの処置が必要になる場合もあります。そのうち永久歯が生えてくるからと、乳歯が早くに抜けたことを安易に考えないで、小児歯科に相談してほしいですね。

横須賀市では2歳半の 歯科健診で乳歯をチェック 抜けた乳歯の形にも注目

宮本先生 乳歯が早く抜けてしまつことや、骨折、成長の遅れといったHPPの症状について、最近では小児科でも注意してみるようになっていきます。小児科と小児歯科との連携協力で、子どもの成長に関わる病気の兆しを早期に見つけようというわけです。

木本先生 横須賀市では、1歳半と3歳半の乳幼児健診の中間にあたる2歳半で歯科健診を行っています。乳歯が生えそろうってくるこの年齢で、虫歯予防や歯みがき指導などに加え、グラグラしたり抜けたりしていないかを確認することにしました。この年齢での乳歯チェックはとても大事だと思っています。

乳歯が早くに抜けてしまつたら、歯科ではレントゲンで歯の下に隠れている永久歯の育ち具合、根の長さや永久歯との位置関係などを確認します。もうひとつ大切なのは抜けた乳歯の形です。自然に抜けた乳歯は、歯の根が溶けて「コロツ」と丸い形ですが、HPPの場合は乳歯の根が長く残っているのが特徴です。4〜5歳で抜けた場合であっても抜けた乳歯の形に注目し、何か気になることがあれば小児歯科に持参して相談してください。

横須賀市では、HPPの疑いがあれば小児歯科から小児科へ紹介する流れができています。

地域の小児科と 小児歯科の連携協力

宮本先生 HPPの疑いがあるお子さんが紹介された場合、我々の小児科では、血液検査でアルカリホスファターゼの値を確認し、全身の検査を行います。さらに、症状の程度や状態に応じて、地元の小児科医と連携しながら定期的に経過観察を続けます。HPPは遺伝が関係している難病ですが、患者さん全員の症状が重く治療を受けなくてはならないわけではありません。様子を見ながら、必要な治療を開始します。難病を抱えながらもふつつの生活ができるように、小児科と小児歯科が連携協力し、地域全体で見守り支えていく体制ができていることを知っていただきたいです。

木本先生 親御さんの安心にもつながると思うので、2歳半の歯科健診は必ず受けていただきたいですね。そして、気になることがあつたら躊躇しないで相談していただけばと思います。

こんな時には小児歯科へ...

- 4歳未満で乳歯が抜けた
- 抜けた歯の形が細長い
- 同じ時期に何本も続けて抜けた

同時にチェック

- 骨折したことがある
- 同年齢の子に比べて身長が低い

